



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.
20

平成22年9月発行



正門・石堀・玄関車寄せは国登録文化財

企画展 「学童集団疎開の記憶」

太平洋戦争が激化し、本土決戦を目前にして、文部省は学童の縁故疎開（都市の児童を田舎の親戚などの家に移す）を促しましたが、昭和19（1944）年6月30日、国民学校初等科児童の集団疎開が閣議決定されました。

京都市は、最初疎開を行う都市ではありませんでしたが、昭和20（1945）年1月、修道学区の馬町が空襲を受け、同年3月の春休みに入った時点から、3年生以上の第一次集団疎開が始まりました。

疎開先は地域ごとに京都府下の町村が指定され、宿舎には寺院や教会、旅館が寮として提供されました。

疎開児童は、疎開先の国民学校（小学校）で地元の児童と一緒に授業を受け、放課後は畑を耕すなどの労働に就きました。約七ヶ月間の疎開生活を親元から離れて暮らした幼い子どもたちは、空腹感とホームシックとシラムシ等の害虫に悩まされ、逃げだす児童もいました。また、引率教職員にとっても、児童の生命を預かった苦しい七ヶ月間でした。

一方、疎開児童を受け入れた地域の住民との交流は、思い出深い記憶として残り、年月を経た現在まで交流が続いている例もあります。

こういった貴重な体験をした人々の記憶を収集し、集団疎開の実情に迫る当時の資料を展示することで、二度と同じ歴史を繰り返さないためにも後世に伝え、平和と人権の大切さを感じていただく展覧会にいたしました。

【開催期間】 平成22年6月25日（金）～9月27日（月）

【関連講演会の開催】 8月28日（土）午後2時～ 講師：山崎泰正氏「憶学童集団疎開の記憶」
9月11日（土）午後2時～ 講師：磯崎幸典氏「西陣空襲被害を体験して」



修徳国民学校の疎開絵日記「就寝前の風景」
個人蔵



京都師範学校女子部附属国民学校の疎開
「手作りのセタを担いで」 個人提供



絵手紙「瑞雲寺寮の午後」（有隣国民学校）
瑞雲寺蔵



葉桜寮の澤井淳子さんの絵日記（修徳国民学校）
個人蔵

京都市学校歴史博物館のホームページアドレスが新しくなりました。
新アドレスは <http://kyo-gakurehaku.jp> です。是非御覧ください。